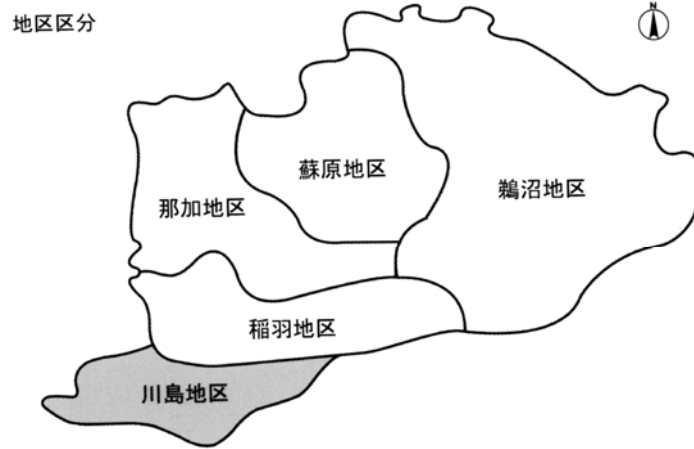


川島地区



※地区の細分は小学校区による

水と緑に包まれ、安全・安心な全島交流ゾーンの形成

本地区は、交通インフラの整備や水と緑に恵まれた河川環境楽園等の整備により、多くの観光客が訪れている。今後もこれらの施設等の有効活用を図るとともに、ごんぼ積み集落周辺地区における当該地区の魅力を発信するまちづくり等により、更なる交流・賑わいを創出するとともに、防災や交通安全対策の推進により安全で安心な生活環境を創出することを目標とする。



河跡湖公園

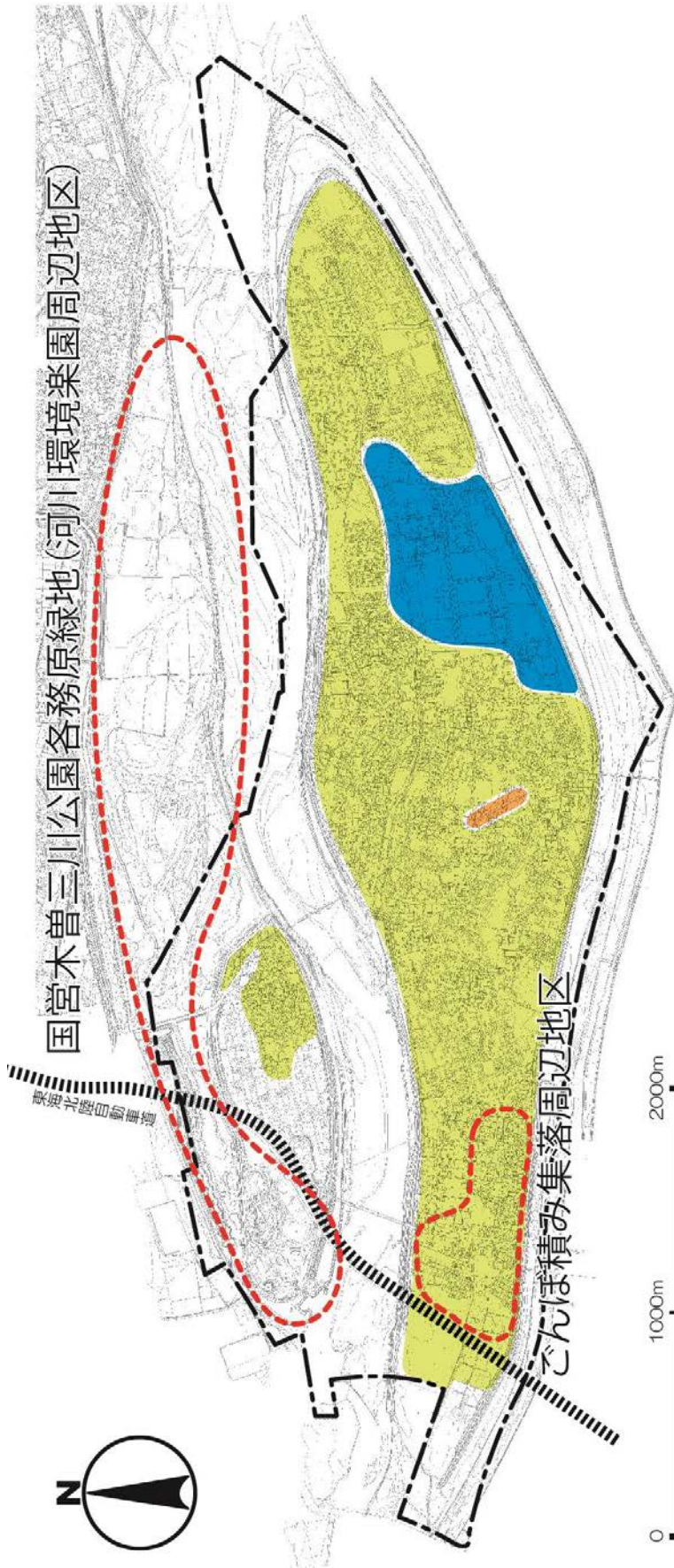







河川環境楽園



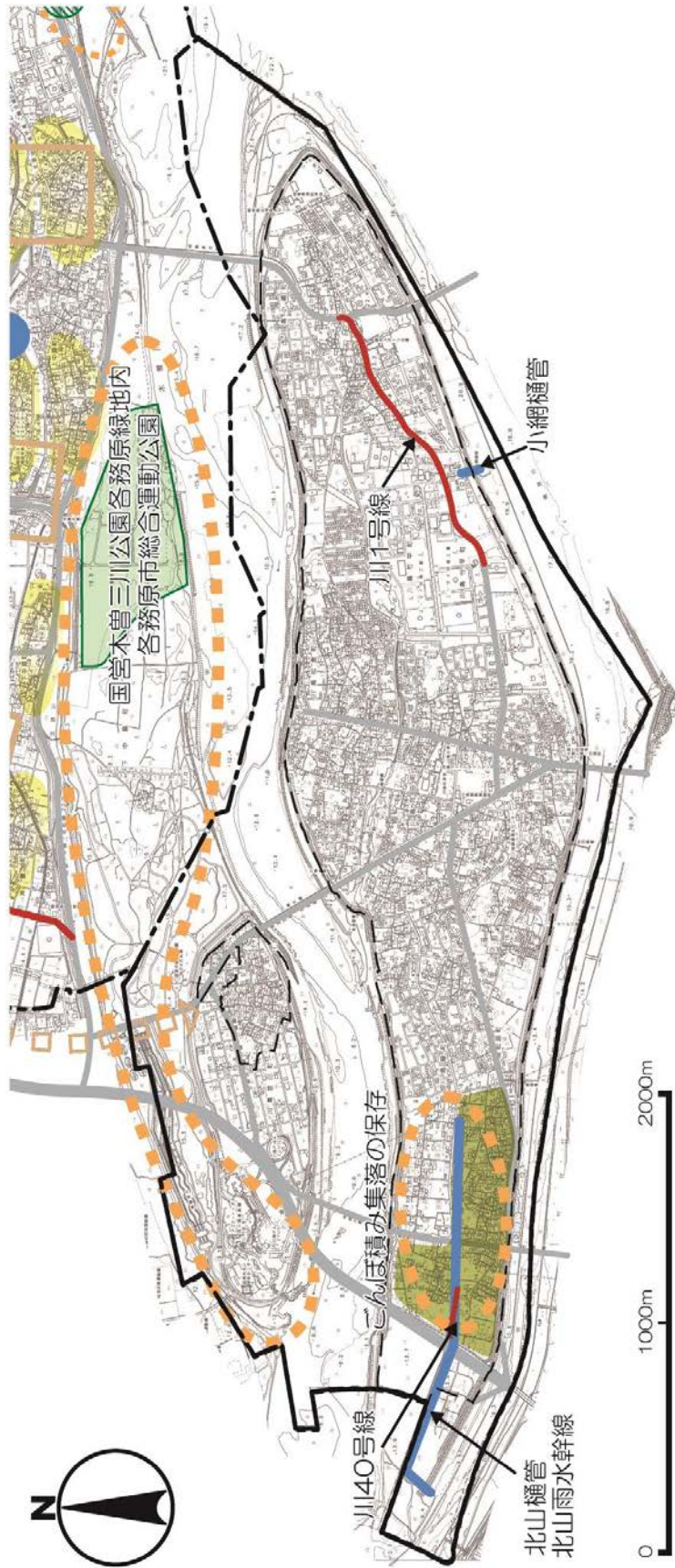
ごんぼ積み

土地利用方針図



凡	例
	住宅地域
	沿道活用地域
	工業地域
	主要課題地区
	地区界

都市基盤整備方針図



凡		例	
	歩道整備道路		主要課題地区
	整備予定雨水幹線		生活道路重点整備地区
	地区計画に基づく道路整備		公園・緑地（新設・短期整備）
	根幹的な幹線道路（4車線）		景観保全を推進する地区
	地域の幹線道路（2車線）		
	地区界		
	市街化区域界		

1. 主要課題地区の方針

土地利用上特に課題を有する「ごんぼ積み集落周辺地区」、「国営木曾三川各務原緑地（河川環境楽園周辺地区）」について、地区別の方針を以下に示す。

（1）ごんぼ積み集落周辺地区

ごんぼ積みとそれに挟まれた細い路地等が織りなす川中島特有の景観を活かしつつ、生活環境の改善に向けたまちづくりを進める。

今後は、地元住民のごんぼ積みに対する保存意識の醸成と、当地区の魅力を発信するまちづくりを進める。

（2）国営木曾三川公園各務原緑地（河川環境楽園周辺地区）

河川環境楽園については、自然に親しめる場の形成を図る。また、河川環境楽園、かさだ広場、各務原市総合運動公園等を一体的に活用し、交流拠点の形成を促進する。

2. 土地利用の方針

(1) 区域区分の課題と方針

①現状と課題

川島地区の人口密度は平成22年現在約43人/haであり、比較的低密度な市街地が形成されている。また、東海北陸自動車道以西は全くの未利用地が存しており、笠田地区の市街化調整区域においては、宅地開発がスプロール的に進行している。

このような現状を踏まえ、将来人口に見合った市街地規模の設定と市街化調整区域における土地利用整序を図る必要がある。

②方針

東海北陸自動車道以西の市街化区域については、良好な自然景観を維持し、都市環境の保全を図りつつ、木曾川の堤防の整備に合わせ、今後の土地利用を検討する。また、笠田地区の市街化調整区域においては、農地転用許可及び開発許可制度を適切に運用し、無秩序な土地利用が進まないように努める。

(2) 主要用途の土地利用の課題と方針

川島地区は、過去から繊維業関連が盛んな地区であることから、一部の市街化区域において「特別工業地区」を定め、住工混在を一定の範囲で許容している。現在まで、生活環境を著しく阻害するような土地利用上の問題は発生していないことから、現在の用途地域を維持していく方針とする。以下にこれを前提とした地域別都市的土地利用の方針を示す。

①住宅地域

住宅、工場、農地、樹林地が混在する状況にあるが、これは本地区が繊維産業を地場産業とするといった歴史性によるものであり、職住近接型の土地利用とも言える。また、市街地内に数多く点在する豊かな樹林地は、潤いある住環境をもたらしている。

今後は、こうした歴史性と緑を保全活用しながら、現在の良好な住環境の維持を図る。

②沿道活用地域

本地区のほぼ中央を南北方向に通る県道松原芋島線沿道は、店舗や事務所等が立地する状況にある。

今後も、地区住民の生活便利性の向上に資するような沿道活用地域としての土地利用を促進する。

③工業地域

本地区の基幹産業である大規模工場が立地し、工場内の豊かな緑と一般公開された博物館の存在により、該当地域は地区の大きな個性をともなっている。

今後もこの緑豊かな環境の維持を図るとともに、地域との一層の融和を図る。

(3) 市街化調整区域の土地利用方針

①現状と課題

笠田地区の市街化調整区域においては、宅地開発がスプロール的に進行しており、ソフト面での対策を含め、水害に対する安全性の向上を図るとともに、土地利用の計画的誘導が課題である。

②方針

笠田地区の市街化調整区域においては、防災対策の強化を図りつつ、農地転用許可及び開発許可制度を適切に運用し、無秩序な土地利用が進まないように努める。

3. 都市基盤整備の方針

(1) 街路・道路

①幹線・補助幹線道路

ア) 現状と課題

本地区は、各務原大橋の完成により、木曾川の増水時でも直接旧各務原市側と連絡する道路が確保され、利便性の向上のみならず、防災安全面での効果も確保された。これに対し、地区内の補助幹線道路の整備状況を見ると、未整備区間が多く残されており、地区内外のアクセス性の向上と交通混雑の改善が課題である。

イ) 方針

追加の検討をする路線

【路線名】 (都)日野岩地大野線延伸路線

【目的】 稲羽地区との連絡を強化するため、(都)日野岩地大野線の(都)一般国道21号線以南への延伸を検討する。

②生活道路

ア) 現状と課題

市街化区域（工業地域は除く）において道路不足地区（P123 参照）が多くあり、その改善が課題である。

イ) 方針

○住民参加による主要な生活道路の計画づくりと整備促進

既定計画の無い道路不足地区においては住民参加により整備路線を決定し、その整備を促進する。

○幅員4m未満の生活道路の解消

幅員4m未満の道路が多い既成市街地や集落地においては、安全で快適な住環境を確保するため、2項道路（P124 参照）について、狭あい道路整備事業などを活用し、個々の建築行為と連動しながら確実に後退用地の確保を進めるなど、道路不足地区においては、住民参加により幅員4m未満の道路の解消を図る。

③歩道等

ア) 現状と課題

歩道等は、主要な幹線道路において順次整備を進めている。しかしながら、歩道の連続性が確保されていない箇所もある。今後、少子高齢化の進展や、自動車に過度に依存しないコンパクトなまちづくり、通学路の安全確保等の観点から、歩行者等のネットワーク形成を図る必要がある。

イ) 方針

歩行者等のネットワークを形成するため、以下の路線を道路整備路線（歩道を含めた道路整備を予定する路線）として位置付ける。

- 川 1 号線
- 川 40 号線

また、川島地区の堤防整備の状況を踏まえつつ、地区を周遊できるネットワークの形成を検討する。

(2) 公園・緑地

①現状と課題

緑の基本計画に基づき、計画的に公園整備を行ったことにより、地区内における公園整備は概ね完了した。

また、本地区には、国営木曾三川公園各務原緑地内に河川環境楽園が立地しており、年間約 451 万人（平成 26 年実績）が訪れ、にぎわっている。

今後は「公園施設長寿命化計画」に基づき、計画的に公園施設の改築・更新を行っていく。

②方針

緑の基本計画に基づき、以下に示す公園の整備を進める。

ア) 公園の整備計画

今後、国営木曾三川公園各務原緑地の整備を進めるほか、計画的に公園施設の改築・更新を行っていく。

(3) 下水道（汚水、雨水）

①現況と課題

川島地区においては、ほとんどの地域で整備が完了している。今後は未整備の一部地域について、投資効果を検証しつつ、地域の特性を的確に把握し、効率的に整備できるよう慎重に検討を進める必要がある。

雨水整備は川島地区の一部では整備済みであるものの、未整備の雨水幹線が存在する。また、短時間集中豪雨（ゲリラ豪雨）時の浸水被害が、近年発生している。今後さらに市街化が進み保水・遊水機能を有する農地の減少、都市構造の変化等から洪水流出量の増大が予測されるため、市街化に合わせた雨水対策の展開が課題である。

②主要な施設の配置方針

今後は、川島第1処理分区のうち未整備の一部地域において整備の検討を進める。また、既に整備された区域においては、適切な維持管理を実施する。

雨水については、北山、小綱排水区において整備を進める。

③主要な施設の整備目標

今後は、下記の下水道施設の整備を引き続き進める。

種別	名称	備考
下水道（汚水）	公共下水道整備	川島第1処理分区の一部
下水道（雨水）	雨水施設整備	北山雨水幹線、北山樋管、小綱樋管

（4）景観

①課題

市内に架かる橋周辺の地区は、来訪者にとって市のイメージを左右する場であることから、木曾川の自然景観に配慮しつつ、本市の玄関口にふさわしい景観形成が課題である。

また、河跡湖はかつては木曾川の派流であった特異な環境資源を持つと同時に、その周辺には豊かな緑地が残り、市街地における貴重な自然資源でもあることから、これが一体となって醸し出す当該地区ならではの景観の維持・保全が課題である。

製薬製造工場及びその周辺は、川島地区の市街地にあって、ひととき大きな緑のまとまりがある地区であり、また工場沿いの松並木は勇壮な景観を創出していることから、工場内の樹木も含め、これらまとまった緑を保全していくことが課題である。

さらに、ごんぼ積み集落周辺では、水害対策として、玉石積みを家屋の基礎とした建物が建ち並んでおり、またこの石積みに挟まれるように小路が竹林や社寺を結ぶという、川中島特有の景観を創出している。今後は、当該地区における防災性や生活利便性の向上に配慮しつつ、地域の個性としてこれらの景観を維持・保全することが求められる。

②方針

本地区における景観計画は以下の通りである。

ア) 歴史景観

○ごんぼ積み地区

川島渡町・北山町地区では、水害対策として、玉石積みを家屋の基礎として、建物を建てている。そして、この石積みに挟まれるように小路が竹林や社寺を結ぶという、川中島特有の景観を有しており、これらを保全し、合わせて防災性と生活利便性の向上を図ることを目標とする。

○河跡湖公園地区

豊かな緑と生物に配慮した公園整備と、周辺の緑の保全、三ツ屋池、柞下（ほうすもと）池をつなぐ鉄砲川の水質保全を図ることを目標とする。

イ) 自然景観

○エーザイ川島工園地区

勇壮な工場沿いの松並木と、工場内の緑の保全を図り、周辺地区については緑化を図ることで緑豊かな自然景観を創出することを目標とする。

ウ) 主な道路・河川に隣接する地区の景観

○木曾川沿い地区

河川環境の保全のみならず、周辺の景観要素についても同様に保全や改善を図るとともに、木曾川に架かる橋など、木曾川を眺められる眺望点からの景観についても保全することを目標とする。

○木曾川に架かる橋周辺地区

（共通目標）河川を眺める眺望点の確保、木曾川と合わせて眺められる景観に配慮した橋梁となるよう、さらに本市の玄関口にふさわしい自然景観に配慮したまちなみの形成を図ることを共通の目標とする。

・各務原大橋通り沿線地区

橋周辺の区域は屋外広告物の規制等により、自然景観に配慮したまちなみ形成を図ることを目標とする。

・河田橋周辺地区

渡船場（馬道渡し）跡の歴史景観に配慮したまちなみの形成を図ることを目標とする。

・渡橋周辺地区

渡船場（わたり渡船場）跡の歴史景観周辺のごんぼ積み集落のたたずまいに配慮したまちなみの形成を図ることを目標とする。

（５）安全・安心（防災等）

狭あいな道路を基盤として形成された集落地が多く見られる。これら地区では震災時や火災時に避難活動や消火活動に支障をきたす恐れがあるとともに、延焼の危険も高いといえる。こうした防災上の問題に対処するため、以下の防災対策を進める。

○狭あい道路の解消

○安全な避難を可能とする歩道の整備

○延焼遅延効果を有する街路樹の整備

○避難場所の確保

○耐震性防火水槽の設置等による消防水利の充実

○建物の不燃化、耐震化等の防災対策

なお、ごんぼ積み集落周辺地区においては、歴史的まちなみの保全に向け、一部狭あい道路については「ごんぼ積み路地」としてその雰囲気を継承することを予定している。こうしたまちなみ保全を進めつつも、集落地の防災性の向上を図るため、消防水利の充実を行う。

